

「気仙沼市ひとり親の生活調査」報告書

～誰も取り残されない気仙沼の実現に向けて～

2022年11月4日

(2022年11月18日改訂)

特定非営利活動法人「人間の安全保障」フォーラム

特定非営利活動法人ウィメンズアイ



目次

1. 調査概要・背景
2. 本調査の要点
3. アンケート回答者の属性
4. 就労について
5. 家計全体の収入について
6. 生活について
7. 子育てについて
8. 求められる支援

調査概要・背景

➤ 調査概要

この調査は、2022年3～4月のアンケート調査結果と調査前後のインタビューを中心に、気仙沼市におけるひとり親世帯の生活実態を明らかにし、今後の支援施策の提案と運用改善に資する情報を提供することを目的としています。

特定非営利活動法人「人間の安全保障」フォーラムが特定非営利活動法人ウイメンズアイ、気仙沼市、専門家や研究者ら協力のもと実施しました。

調査名：「気仙沼市ひとり親の生活調査」

期間：2022年3月28日（月）～4月11日（月）

対象者：児童扶養手当または母子・父子家庭医療費助成の資格登録569世帯

回答数：232 有効回答数：232

調査方法：対象世帯へ質問回答用紙を郵送し返信封筒で回収。調査前ヒアリング3名、調査後のインタビュー10名。

* 本調査の「当事者の声」は、回答者の自由記述とインタビューから転載。自由記述はできるだけそのまま使用しているが、長い場合は抜粋した。「当事者の声」の赤字ハイライト追加は報告書作成者による。

➤ 背景について

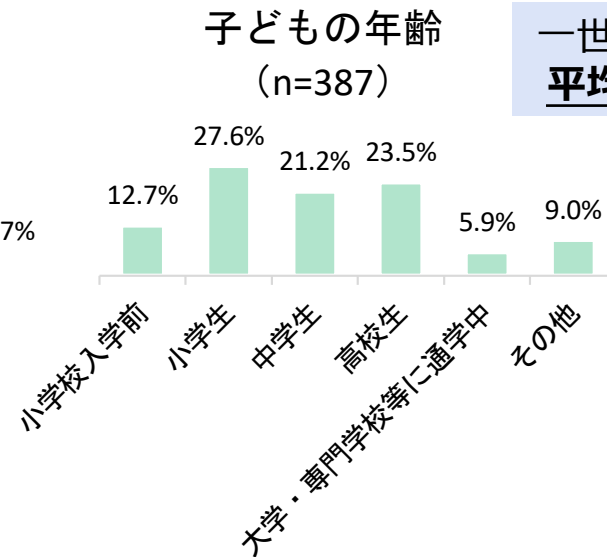
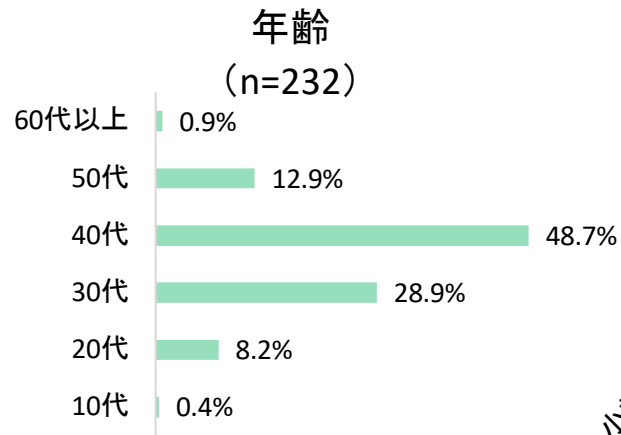
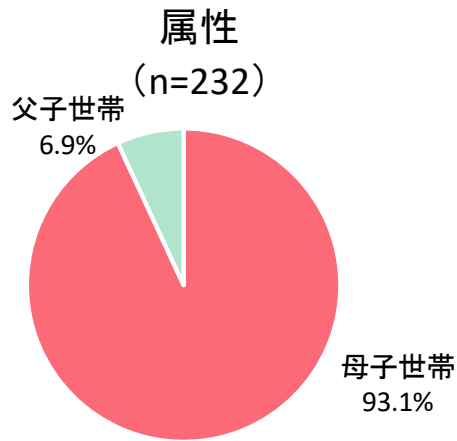
- 全国的に、ひとり親世帯は平時から脆弱性が高かった（養育費受給率24%、就業率は81.8%だがそのうちパート・アルバイト等の非正規雇用が43.8%）。（出典：厚生労働省「平成28年度全国ひとり親世帯等結果報告」）
- 就業率は高いが収入が低く、平成27年の平均収入は243万円（うち、就労収入は200万円）。（出典：厚生労働省「平成28年度全国ひとり親世帯等結果報告」）
- 児童扶養手当は低所得のひとり親世帯93万9262世帯（2019年3月末）が対象。支給額（2022年・令和4年度）は子ども1人の場合、収入に応じて月10,160～43,070円。第2子は月額最大10,170円、第3子以降は月額最大6,100円と、子どもの数に応じて加算されるが、十分とは言えない。（物価スライド方式をとっており、物価変動率がマイナスだったため、前年度比で支給額は減った）

本調査の要点

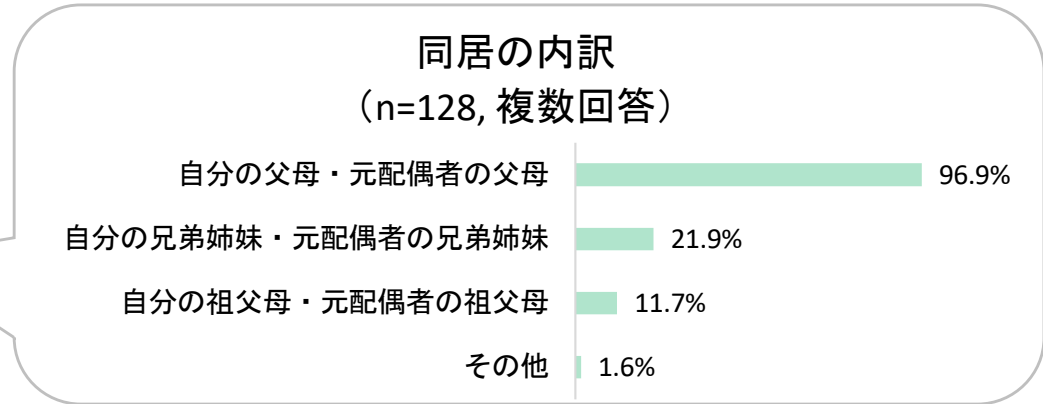
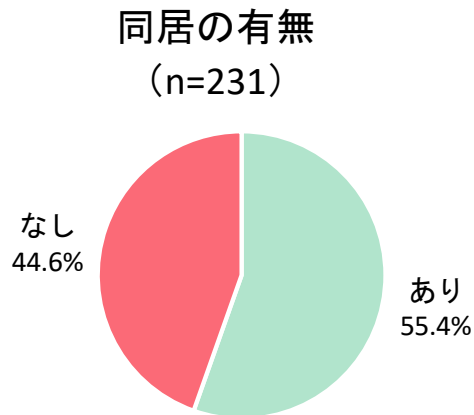
- **就労**：就業率は90.5%で、全国平均の81.8%よりも**高い**。しかし、**就労収入は低く**（平均就労収入15.3万円、税込）就労ができていない世帯は親自身の病気や子どもの障がい、不登校など就労を困難にする様々な要因を抱えている。
- **家計収入**：本調査の**平均は17.2万円**（17.2万円×12ヶ月＝年収206.4万円、税込、手当てを含む）
※気仙沼の子育て中の一般世帯では世帯収入が200万円未満の世帯はわずか6.4%（「気仙沼市子どもの生活に関する実態調査」令和3年9月実施より）
- **平均の睡眠時間**：宮城県の7.5時間と比べて**6.2時間**と短く、仕事と育児家事に追われて生活に余裕がないという記述が目立つ。子育てと仕事の両立を希望する声は多いが、子どもの急な発熱や日々の送迎や学校行事・部活への対応などが必要であり、困難な状況がある。母子世帯では、同居の有無による、家事・育児時間に大きな差はなかったことから、ひとり親の場合は、**子ども関連の事由や家事と仕事の負担にひとりで耐えている**ことが伺える。
- **生活上の悩みや困りごと**：**「金銭面の不安」（80.5%）**が最も多く、続いて「仕事と生活のバランス」（46.8%）、「自分の健康状態」（43.3%）。
- **住居**：住居費の平均は35,417円。**「家族の持ち家」、「公営・復興住宅」が最も多く72.4%**を占め、これら住居費の平均は約28,000円。家賃が家計を圧迫しており、住居費を減らしたいという回答が多い。
- **小学生以上の子どもが学校と家庭以外で過ごす場所**：**「祖父母や親戚などの家」が39.1%**（72人）と最も多く、**「自宅、学校以外の場所は特にない」が33.7%**（62人）が2番目に多い。
- **市役所の窓口**：**「相談したことがある」と答えたのは、27.8%**（64人）。そのうち、**73.0%（46人）が「困った時に相談できる」と回答**。全国調査（2021年）の3～4割と比べて、気仙沼市役所の窓口相談への信頼度が高い。一方、相談しなかった理由は、「相談しても意味がないと思うから」27.1%（45人）、「窓口に行くことに抵抗があるから」24.7%（41人）、「窓口にあいている時間には行けないから」21.7%（36人）が続く。
- **資格取得のための給付金**：**「使ったことがある」と回答した人は7.4%**にとどまる一方、今後やってみたい仕事を実現するために**「職業訓練や資格取得の講座を受けたい」と回答した人は62.6%**、また、**「学びたい内容としてはパソコン」と回答した人が多かった**。
- **母子・父子世帯が使ってみたいサービス**：**「子どもの学習支援」27.6%（63人）**がもっとも多く、**「就労支援（転職や副業の相談）」23.7%（54人）**が2番目に多い。

アンケート回答者の属性

回答者の93.1%は母子世帯、6.9%が父子世帯であった。年齢は40代が48.7%と最も多く、次に30代（28.9%）、20代（8.2%）。子どもの年齢は小学生（27.6%）高校生（23.5%）中学生（21.2%）の順に多い。また、回答者のうち、半数以上（55.4%）が子ども以外に同居している人がいると回答しており、自分の父母・元配偶者の父母が多い。



一世帯あたり
平均1.7人

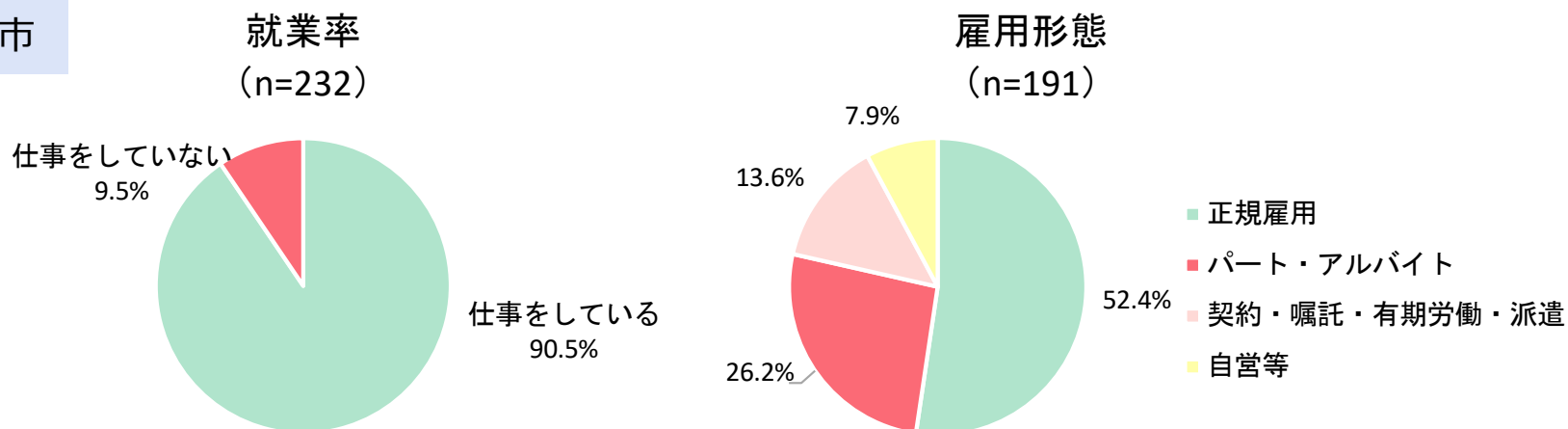


就労について ～就業率と雇用形態～

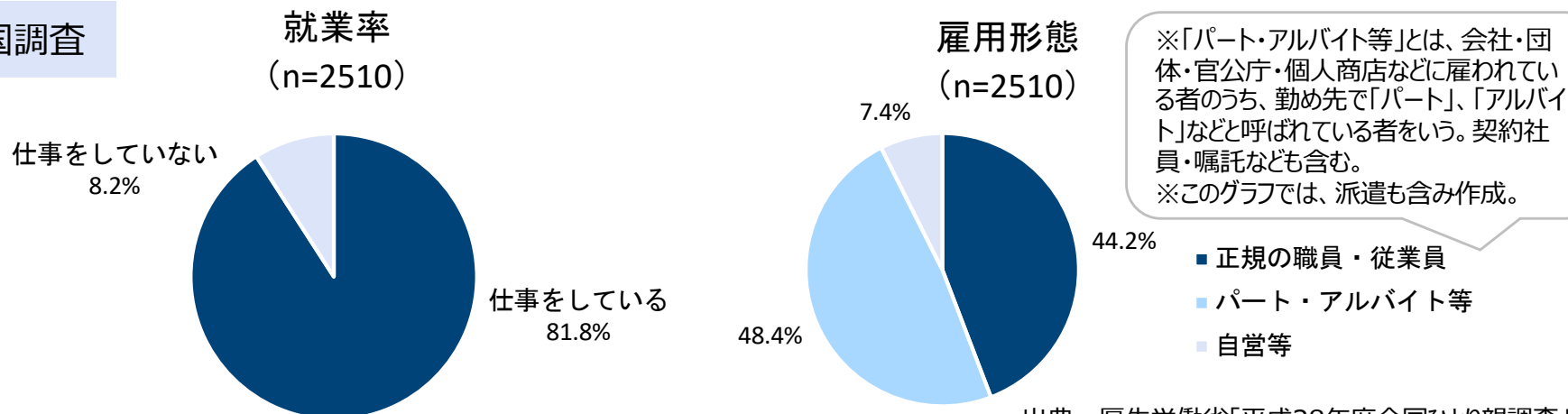
1. 高い就業率と正規雇用率

日本のひとり親の就業率は国際的にも高いが、今回の調査では、厚生労働省による「平成28年度全国ひとり親調査」の全国平均（81.8%）を上回る**90.5%**の就業率であった。正規雇用率も**52.4%**で、全国平均の正規雇用率44.2%を上回っている。

気仙沼市



全国調査

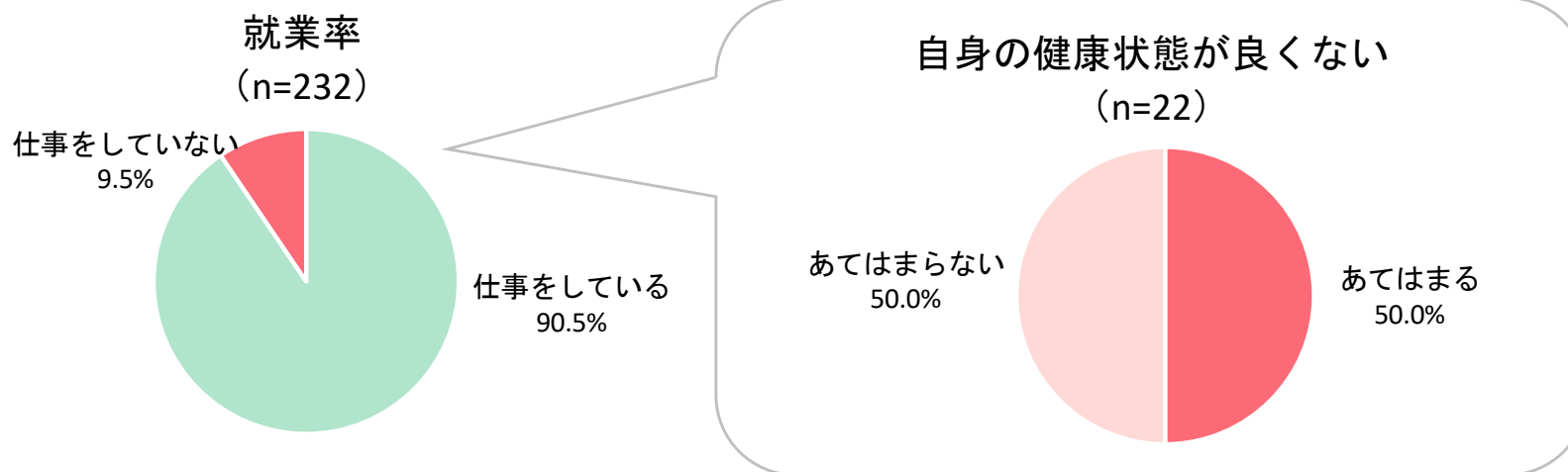


出典：厚生労働省「平成28年度全国ひとり親調査」

就労について ～仕事をしていない人の健康問題～

2. 仕事をしていない人の健康問題

一方で、現在働いていないと答えた9.5%（22人）のうち、「自身の健康状態が良くない」と回答したのが半数と、就労をしていない場合には何らかの健康問題を抱えていることがうかがえる。



(当事者の声)

1. 心身の病気

- 心身の障がいがあり、人とコミュニケーションを取るのが苦痛。人と接するのが怖い。●●（年数）年以上経っても回復のきざしはなく、働きに出れない。
- 自分が大病をしてそれ以来働けなくて●●才の●●（子ども）は●●（障がい）なので、その子の将来が心配。

2. 介護

- 在宅介護で就労できず、金銭的に困ってきた。体調も崩して、通院も多くなったので更にきつい。

3. 子育て

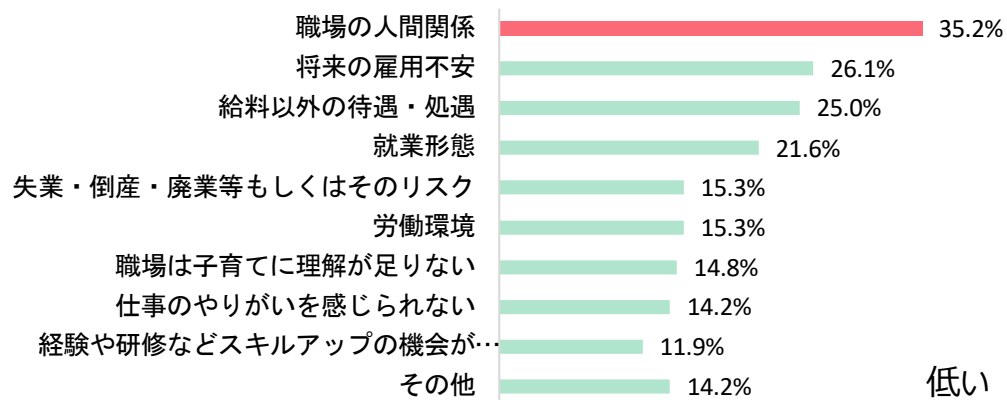
- 収入が全くない。仕事を入れたいのに、子供たちの送迎や、病院などがあると頼れる人がいないからどうしても制限してしまう。生活すべてが不安すぎる。

就労について ～就労環境の課題～

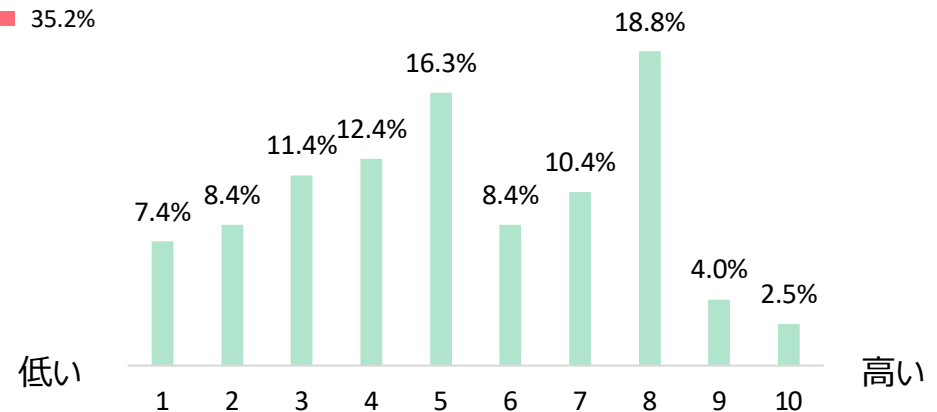
3. 就労環境の課題：人間関係

就労環境について不安や不満を聞いたところ、最も多かったのは「職場の人間関係」であり、ついで「将来の雇用不安」、「給与以外の待遇・処遇」が多い。「その他」を選択した回答者の記述の中には、人手不足による負担増や上司によるパワハラなどが目立った。

就労環境の不安や不満
(n=176, 複数回答)



仕事の環境についての満足度
(n=202)



(当事者の声)

- 上司の度重なる理不尽さ
- 事業主のパワハラ
- 人員不足により仕事の負担が多い
- 営業なので収入が安定しない
- 正職と同じ仕事それ以上なのに、給料は正職の方が高い
- 男女の給与差

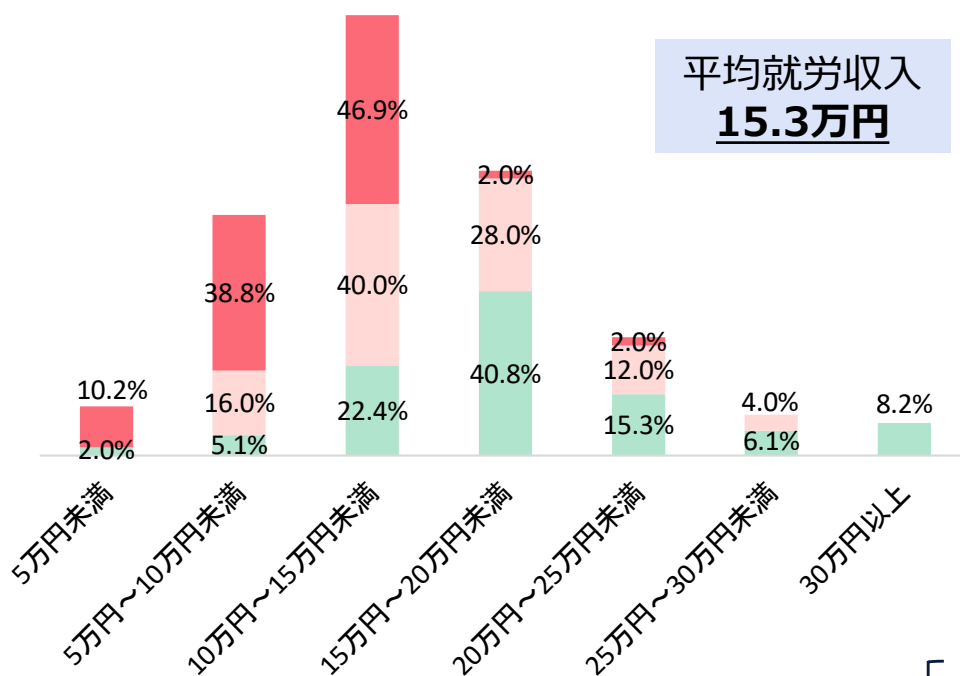
就労について ~就労収入~

4. 低い就労収入

2月の就労収入は、13万円未満が**37.2%**を占めており、全体の平均就労収入（税込）は**15.3万円**であった。正規雇用の40.8%が15万円～20万円未満、22.4%が10万円～15万円未満であるのに比べて、パート・アルバイトの46.9%は10万円～15万円未満、38.8%が5万円～10万円未満と非常に低い。

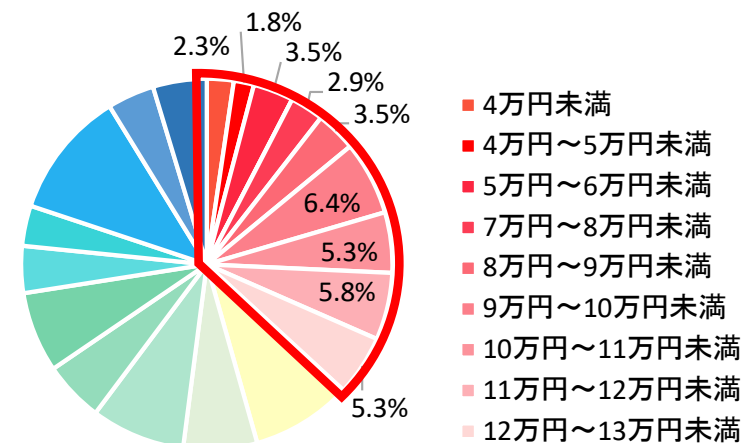
2月の就労収入（雇用形態別）

(n=172)



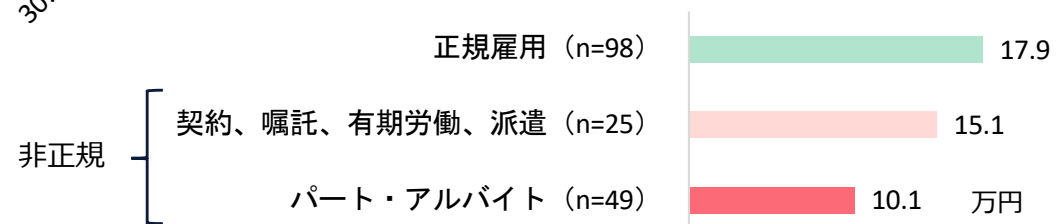
■ パート・アルバイト (n=49)
 ■ 契約、嘱託、有期労働、派遣 (n=25)
 ■ 正規雇用 (n=98)

* 自営等（自営業・内職）以外で計算



平均給与（雇用形態別）

(n=172)



* 雇用形態を回答した人のうち、就労収入を回答した人のみで計算

就労について ～副業への関心～

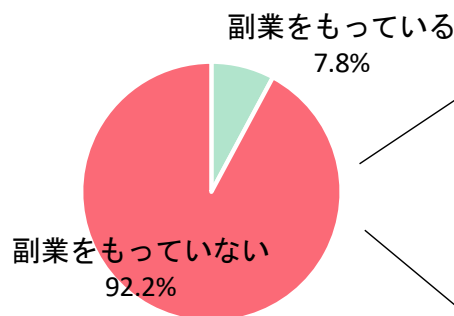
5. 副業

全体の**92.2%**が現在副業を持っていない。一方で、副業を持っていない人のうち、約7割（69.8%）が「副業を持ちたい」と回答しており、調査後のインタビューでも、その理由は「収入の補填」が目的であるという声が多く上がっていた。

就労収入満足度も、5以下が77.5%を占めており、収入に満足していない人が多い。

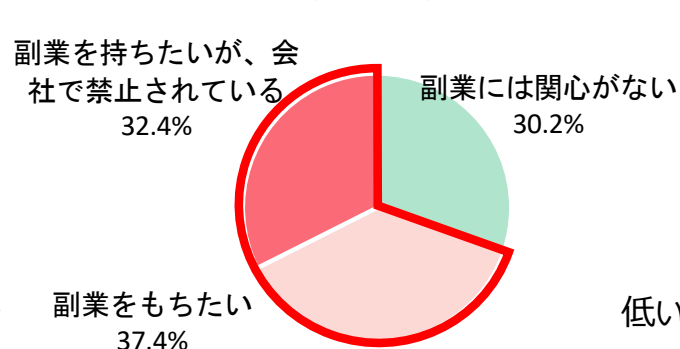
現在副業をもっているか

(n=204)



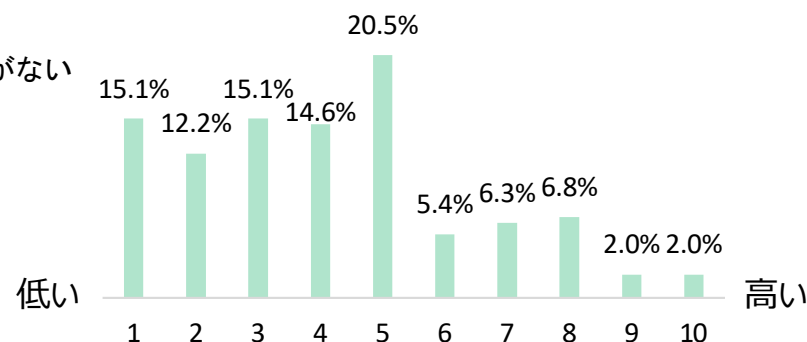
副業への関心

(n=182)



就労収入満足度

(n=205)



(当事者の声)

- 本命の仕事でもっと稼げたらいいけど、なかなか見込みがないので在宅でできる副業をネットで探している。でもやっぱり時間がない。
- 副業をしたくて探していたが、安全なものがないでマルチとかの勧誘が多くて騙されそうになった。安定した収入が欲しくて欲張っちゃうと、いい話を吸収しやすく、周りとの関係がうまくいなくなったりするので今の仕事に集中することにした。
- 夜子どもを寝かしつけた後に数時間在宅でできる副業がほしい。土日働くより毎日家でできる仕事の方が子どもとの時間もとれる。
- 副業が禁止されている。

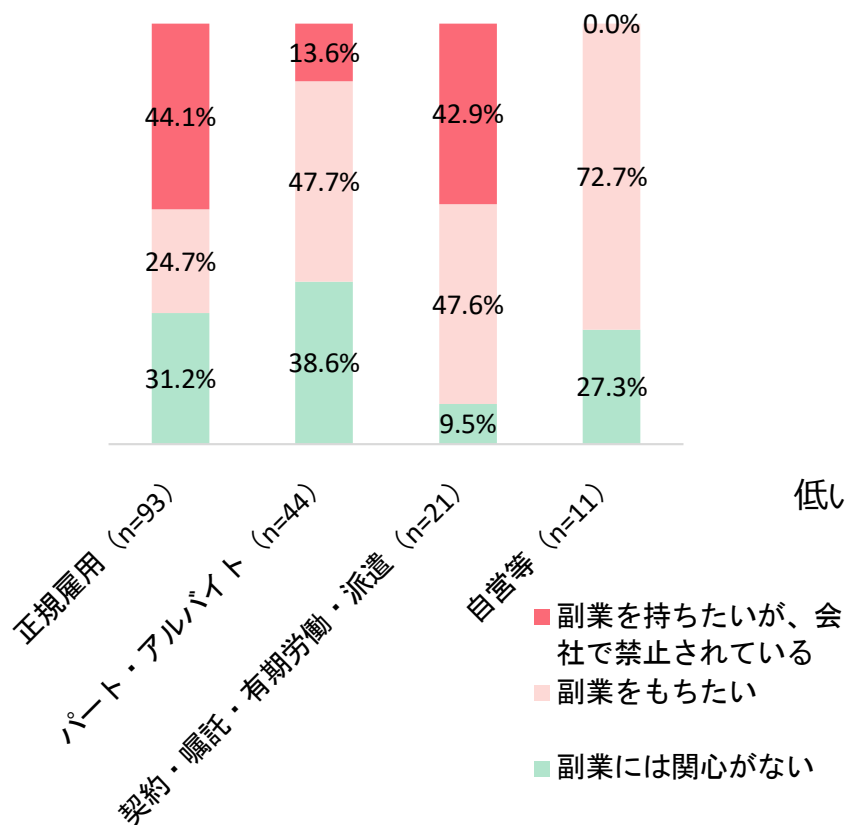
就労について ～雇用形態別の副業への関心～

5. 副業

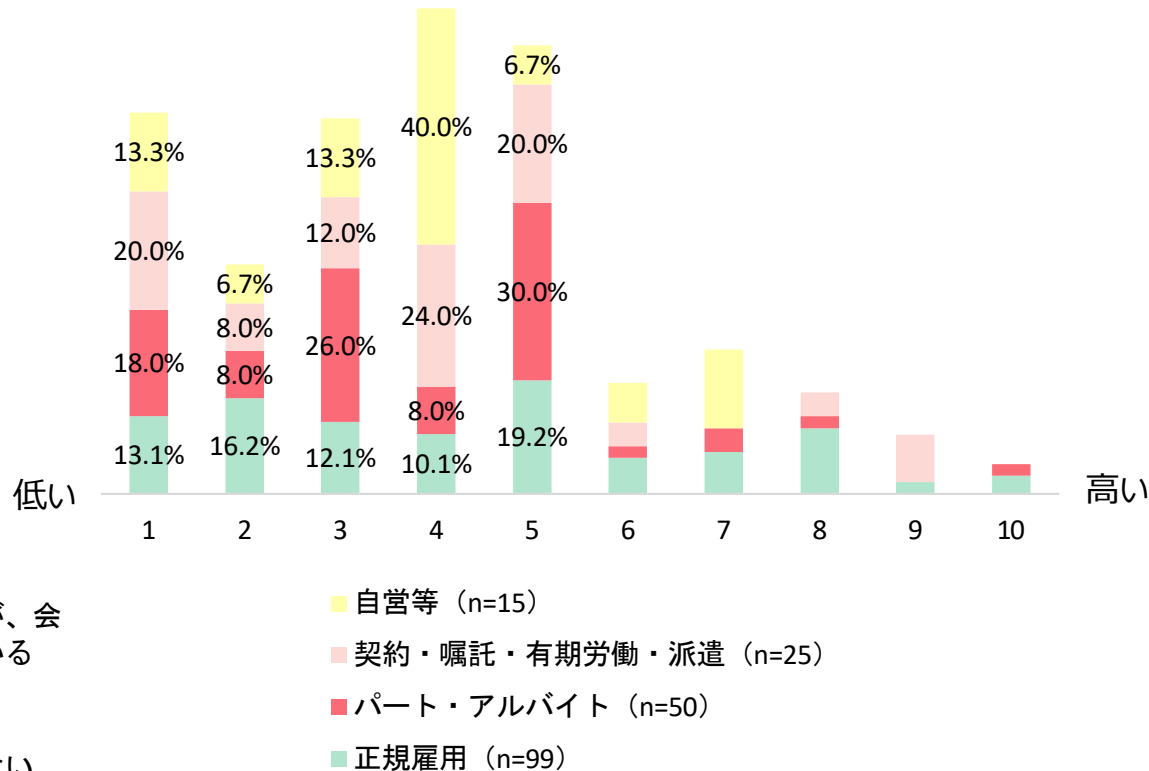
副業への関心は、契約・嘱託等が90.5%と最も高いが、いずれの雇用形態でも6割を超える。副業をもちたいが会社で禁止されているのは、正規雇用が44.1%と最も高く、契約等も42.9%と続く。

就労収入満足度が5以下なのは、パート・アルバイトが90.0%と最も高く、契約等は82.0%、自営等は80.0%、正規雇用は70.7%と続く。

雇用形態別の副業への関心
(n=169)



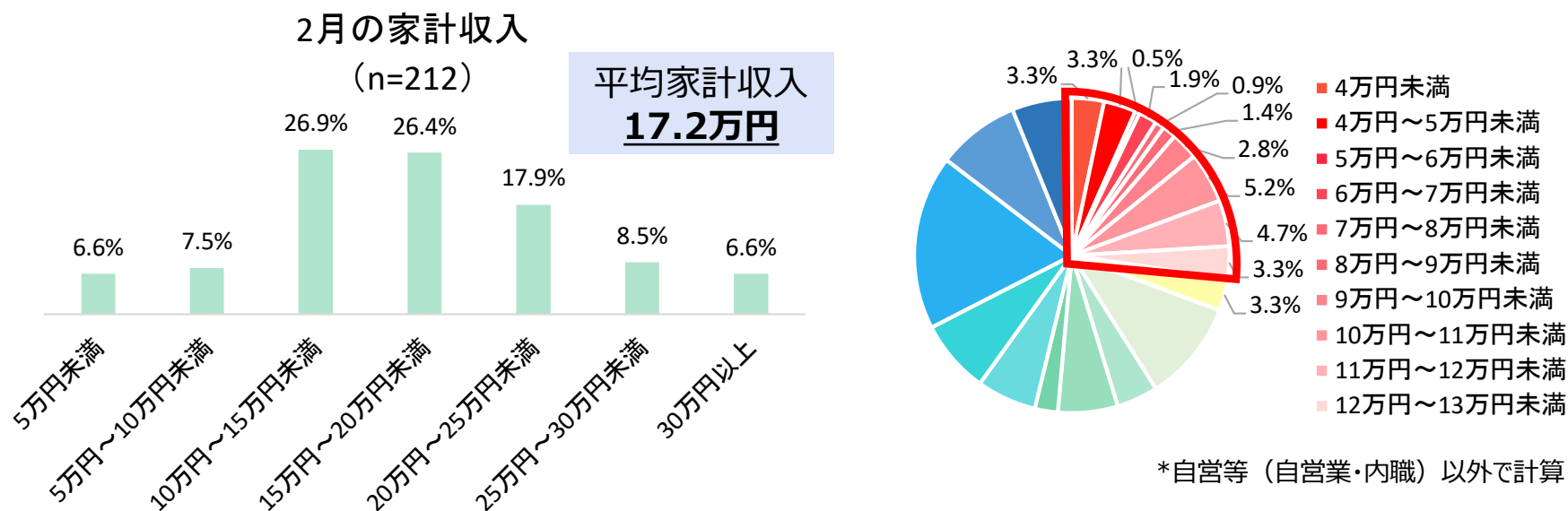
雇用形態別の就労収入満足度
(n=205)



家計全体の収入について ~2月の家計収入~

1. 低い家計収入

児童扶養手当などを含めた、平均家計収入（税込）は**17.2万円**。13万円未満は**27.4%**を占める。自由記述からは、前年所得によって手当の額が決定することから、該当する収入であっても手当が支給されないことや、たとえ家賃や食費を負担をしても同居によって手当がもらえないなどという制度上の問題も聞かれた。



（当事者の声） 制度上の課題

- 12月末から子供たちが、熱や風邪症状で保育所を休みがちな為、月に1週間程しか仕事に出れず、給与が5万円台が続いている。今は貯金で対応しているが、お金も底をつきそうです。養育費もなく、離婚してから1年半、前年度の所得ですべてがみられる為、「母子手当」（＝児童扶養手当）などもらえずにいる。
- 同居している両親の所得が多いため到手当てに所得制限がかかっているが、食費や家賃（間貸り代）は支払っている。養育費も全くもらえていないし、地域的にも基本給は大卒でも高卒程度の賃金なので将来の学費に不安を感じている。
- 同居している私の父の収入があるため、母子手当がもらえない。一緒に住んでいるだけで、金銭面の援助は受けていない。

家計全体の収入について ～子育て世帯の年収比較～

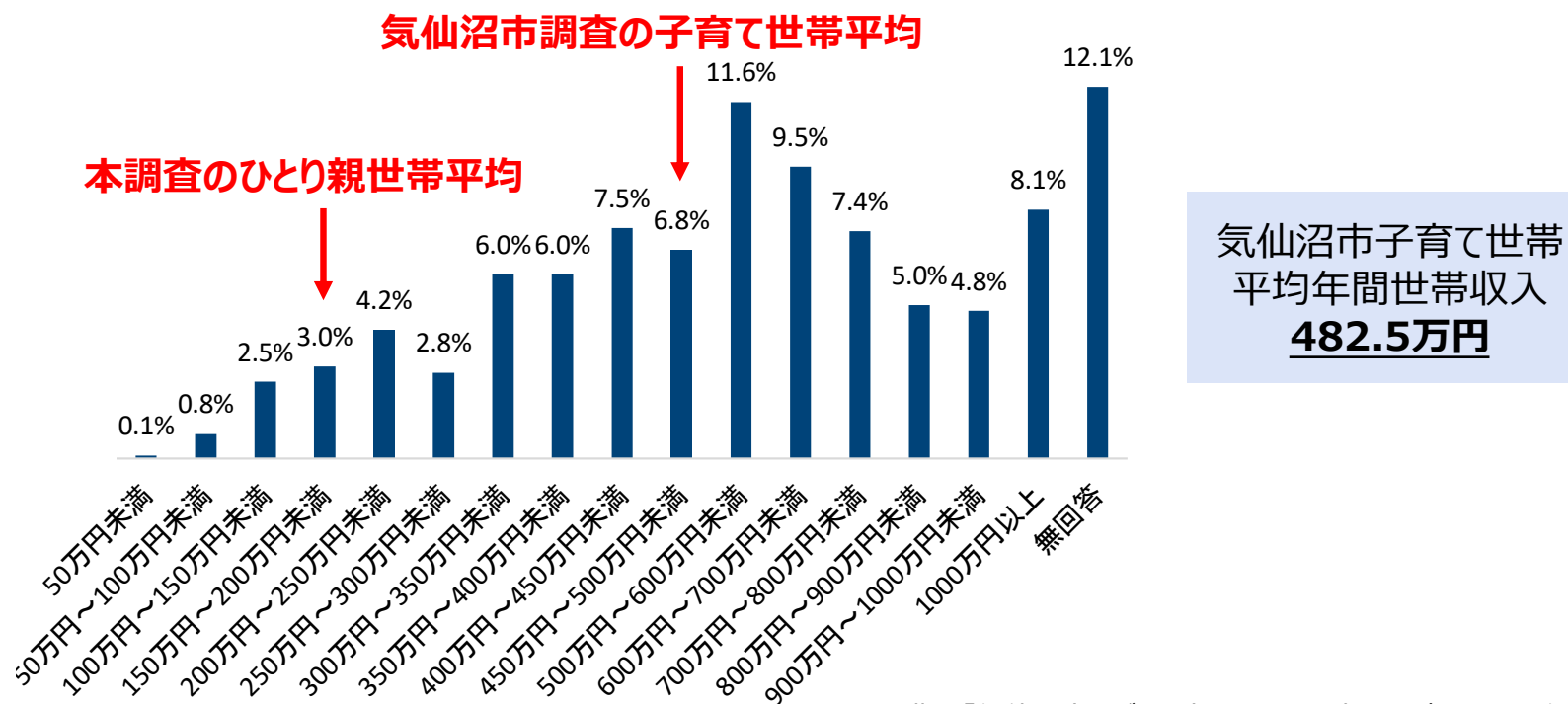
1. 低い家計収入

平均家計収入17.2万円を12ヶ月分とすると年収は**206.4万円**となる。

令和3年9月に気仙沼市が行った「子どもの生活に関する実態調査」では、世帯収入が200万円未満の世帯はわずか6.4%であることから、ひとり親世帯の平均家計収入が非常に低いことがうかがえる。

気仙沼市子育て世帯の年間世帯収入（税込）

(n=838)



出典：「気仙沼市子どもの生活に関する実態調査」(2021年)
(対象：気仙沼市内の小学4・5年生、中学1・2年生の子どもを持つ世帯)

家計全体の収入について ~養育費~

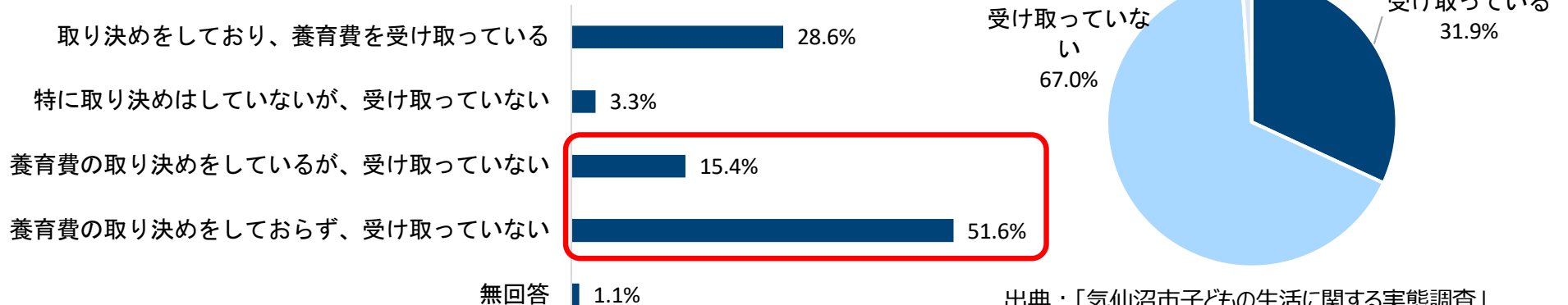
2. 養育費の支払い状況の悪さ

今回の調査では、養育費をもらえていないという声は多く、コロナ禍によって、これまで支払われていた養育費が入らなくなったといった声もあった。気仙沼市による「子どもの生活実態調査」によると、養育費を「受け取っていない」世帯は67%に上っている。また、中には制度や手続きに関する周知を徹底してほしいという声もあった。

(当事者の声)

- 養育費がもらえない（支払いが滞っている）
- 養育費の支払いを裁判所で決めましたが、未払いのまま入ってきません。大学生、専門学生の娘の学費や仕送りにあてるお金が足りない状態です。
- 将来、子供が進学したりする時の金銭面など不安に思います。養育費はなく、何の資格も持っておらず、安定した仕事につけないのでとても不安
- コロナ禍の影響にて、養育費が入らないことが多くなった。
- 公正証書を書いてないから養育費をもらい損ねた人もいっぱいいます。再婚したら払う必要はないとまで思ってる人もいますから。公正証書の存在も知らなかったり。公正証書を書いとけば、家庭裁判所に申し立てすれば費用の相殺もできるのに、そんなのも知らない人たちがばかりです。これはシングルファーザー、マザー関係なく、周知徹底していくべきだと思います。

養育費を受け取っているか
(n=91)

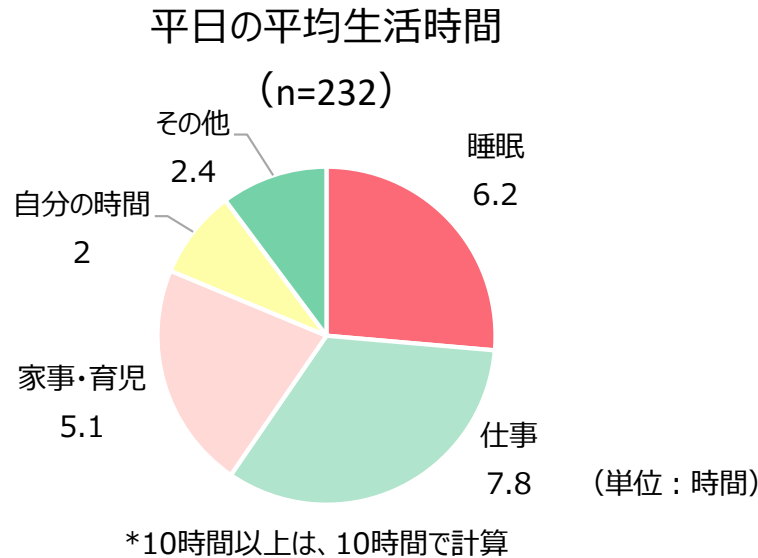


出典：「気仙沼市子どもの生活に関する実態調査」
(2021年)

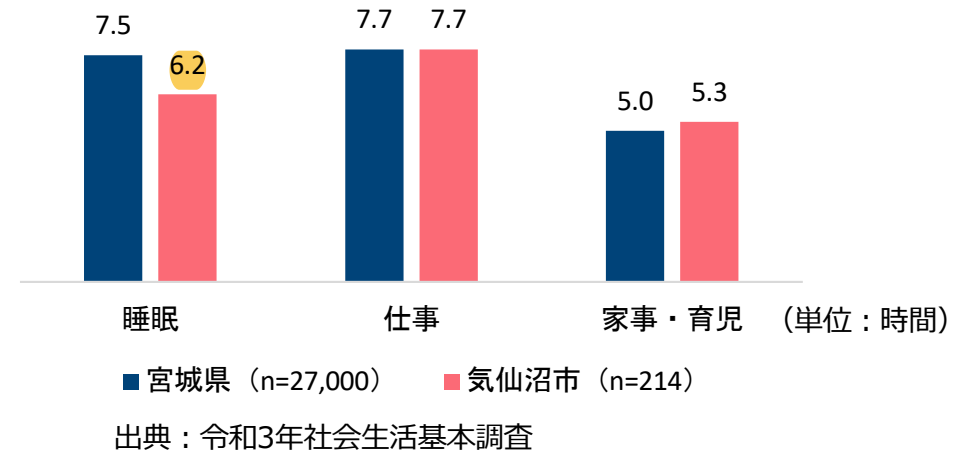
生活について ～1日の生活時間～

1. 睡眠時間が短い

平日の1日の生活平均時間は、睡眠6.2時間、仕事7.8時間、家事・育児5.1時間、自分の時間2時間、その他（食事・入浴・移動等）2.4時間であった。気仙沼市の母子世帯は、宮城県と比べて、平日の仕事、家事・育児時間は変わらないが、睡眠時間が短い。



母子世帯の生活時間比較



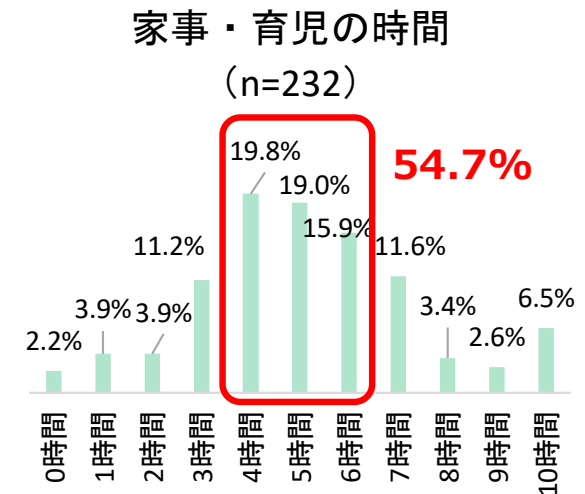
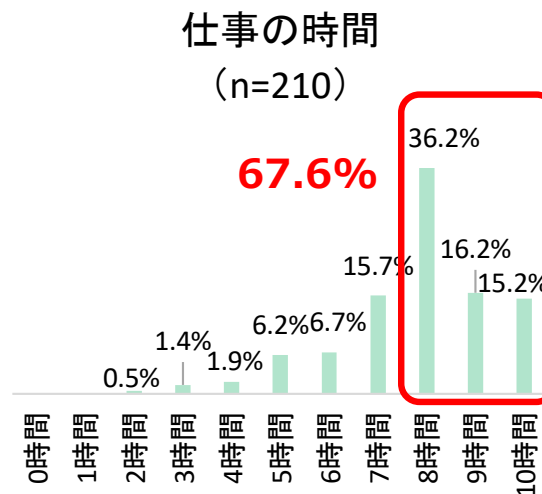
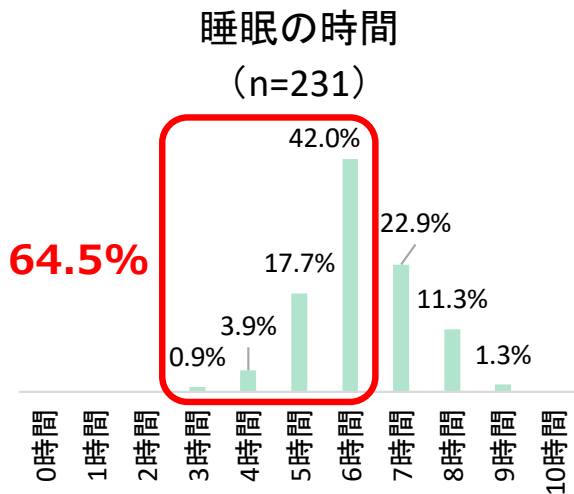
(当事者の声) 生活に余裕がない

- 生活に余裕がなく（金銭面、気持ちの面）、子供たちとゆっくりむきあう時間、自分の体をケアする余裕がない
- 夜勤や残業で身体もボロボロ。子に接する時間がなく辛い。しかし、働かないと食べていけないし。働くしかない。子どもに関わる時間がない。勉強をみてあげられる時間がない。
- 子の病院など、平日に連れていくのが難しい。ましてや、自分はあとまわしになるので、健康状態が悪化している。気軽に行けるよう、社会全体で応援してほしい。労働時間＝収入ではない働き方を探しているが、みつからない。そこがクリアされたら、子や自分の時間を持って心が豊かな人生になると感じている。

生活について ~短い睡眠時間~

1. 睡眠時間が短い

睡眠は6時間以下が **64.5%** (149人)。仕事は8時間以上が **67.6%** (142人)、7時間以上は**83.3%** (175人)。家事・育児は4時間から6時間が **54.8%** (126人) と過半数を占めた。なお、回答者の7割近くを占める8時間以上仕事をしているひとり親に限ると、仕事の平均時間は8.7時間であった。



(当事者の声) 子どもとの時間がない

- フルタイムで土日も含め働いているので子供達と一緒に過ごせる時間が少ない。フルタイムをやめれば時間はできるが収入減で生活していくのが大変になる。子供達が成長していく中でやりたい事もできていないので極力応援したいが、月謝等が発生するので締めざるを得ないこともある。
- 休日は疲れているため時間があいた時は寝てしまう
- 子どもが中・高・大（学校）と育っていく中で、住宅環境や経済面に不安がある。そのため、フルタイム勤務しているが、今の時期は親子ですごく大切な時期であり、仕事と生活の両立、子どもとの関係を思うと毎日葛藤がある。子どもにしてあげたいことはたくさんあるのに、時間が足りなく感じる。親子でゆっくり過ごす時間が欲しい。

生活について ~子育てによる就労の問題~

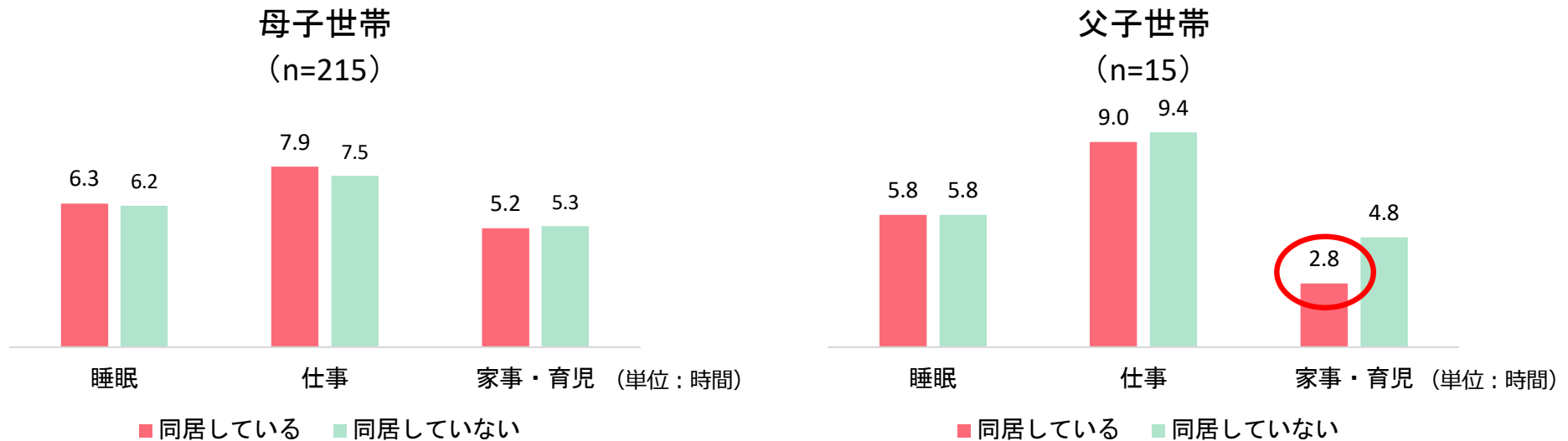
家事労働と子育てをしながら、生活のためにもっと仕事をしたいひとり親は多い。しかし、仕事の条件や職場環境、子どもの預かり先の課題のため、実際には困難である。子どもの急な発熱や日々の送迎や学校行事・部活への対応など、ひとり親に限った問題ではないが、ひとり親ではさらに深刻な状況である。

(当事者の声)

- 収入のために、仕事を増やしたいが、あずけるのにも時間や曜日にしぼりがあるため、かぎりがある。
- 子供がカゼなどひいた時仕事を休まないといけなく、学校等から電話がきた時早退しないといけなく、給料が減ってしまい生活が不安。
- 子育てを中心に考えると、フルタイムで働くことはむずかしく、現在、短時間勤務で働いているので、収入が少なく大変な時もありますが、買い物を減らすなどして生活しています。また、成長と共に反抗期など悩んだり、毎日忙しく生活している状態です。
- 転職したばかりで、まだ生活が落ちついていません。子供の体調不良時などのお休み等、子供中心の生活を考えているため、都合にあった職場がなかなかない。(学歴もないため再就職が難しいです。)
- パートなので時間が短いのでお金がかせげないのでWワークをしたりもしたけど、子供の送迎があるので時間が合わなくて大変。
- 自分一人で子育てしているので、今の状況だと体力的、精神的にパート・アルバイトでの勤務が限界なのですが、それだと金銭面が大変なので正直、毎月の生活がキツイです。もう少し子供たちが大きくなれば楽になるのかなと思いながら今は生活しています。家賃の免除(一定期間でも)等あればとても助かります。給付金にはかなり助かっています。
- もう少し多く仕事はしたいが、日々の送りむかえ、家事など。土・日など学校の部活動の送りむかえ。自分ひとりだけのため急な予定変更などにも対応できる様どうしてもゆとりがある時間の仕事を選ぶので、金銭面の不安がある。何かあった時気仙沼では、ママが来れない時はパパ、パパが来れない時は、ばあちゃん、じいちゃんなど4人体制が多いが、家では私1人のみ。この不安はどうしようもない
- 仕事をしなければ生活が成立しないが、子供と向き合う時間が少ないこと。自分が体調を崩し仕事が出来なくなった時の不安を常に感じている。
- 昨年から●●(年齢)の子供が不登校になりました。そのつきそいの登校や早退などで仕事を休んだり早退しなければならず、パートなのでなおさら休みずらかったり、仕事を辞めさせられるのではないかと不安になります。ですがシングルマザーなので自分が働かなければ支払いもままならず、子供とは違う所に不安が出来てしまい、どうしたらいいか悩みます。何かそういう休まざるをえない事情を助けてくれる仕組みがあればいいなと思います。
- 病児保育や日曜日、祝日に急なことがあっても子供も預けられる所があると助かります。

生活について ~家事負担~

母子世帯では、同居の有無にかかわらず、家事・育児時間に大きな差は見られない。つまり、同居をしても、家事・育児の負担は小さくない。父子世帯は、同居をしていない父子世帯の家事・育児は平均4.8時間と同居の父子世帯に比べて2時間長い。



(当事者の声)

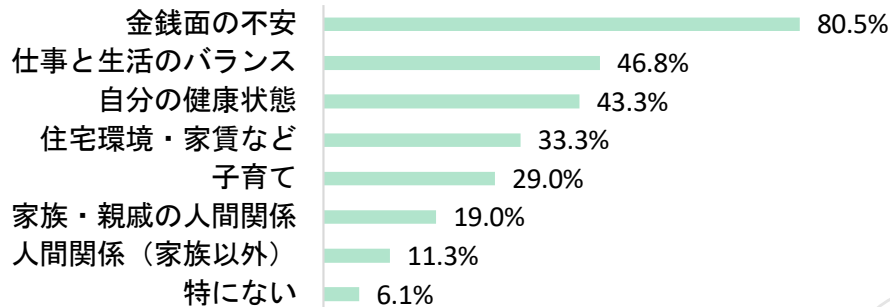
- コロナ下で、子供たちも風邪症状が治るまでは保育所を休むようにと言われる為、月に1週間程しか出勤できないことが続いている。給与で月5万はキツイです。実家は近いですが、私の母親は●●病（病名）や体が弱い為、父や母の看病や仕事だったり、子供達を預ける事も出来ないため、少々の鼻水や咳でも仕事を休まなくてはなりません。コロナにかかった人達は物資や保険がおりる等の対応はありますが、私のように「母子家庭」「親にも頼れない」「養育費も貰えない」「前年度（離婚前）の所得でだけみられる為貰えるべき物が貰えない、引かれる物は引かれる」何か対応してくれないのでしょうか？市からお金を無利子で借りれたとしても、普段からの生活にも余裕がある訳ではないので、返せる自信もありません。本当に生活に困ってる人には手を差し伸べてくれない国や気仙沼だと思いました。
- 自分の母の介護、祖父母も高齢で頼れる人がいない。

生活について ~悩みや困りごと~

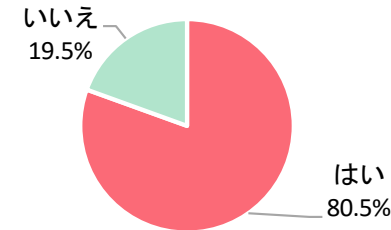
生活上の悩みや困りごとは、「金銭面の不安」**80.5%**（186人）が最も多く、つづいて、「仕事と生活のバランス」**46.8%**（108人）、「自分の健康状態」**43.3%**（100人）。

「自分が自由に使える時間を今以上に取れたらやりたいこと・挑戦したいこと」は、十分な休息・睡眠 **50.2%**（116人）が過半数を占めた。また、「やりたいこと・挑戦したいことが今はできない理由」は、自分のために使える金銭の余裕がないと**59.6%**（136人）が回答した。

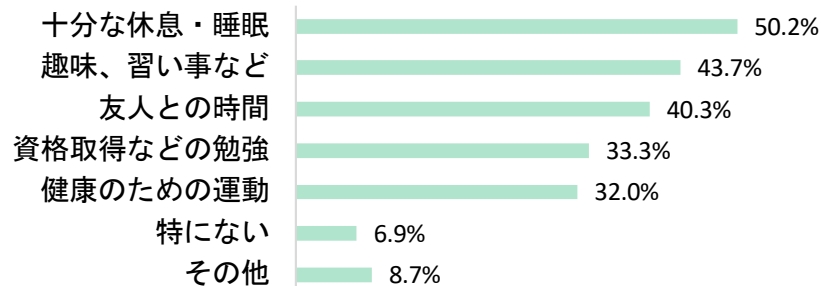
生活上の悩みや困りごと
(n=231, 複数回答)



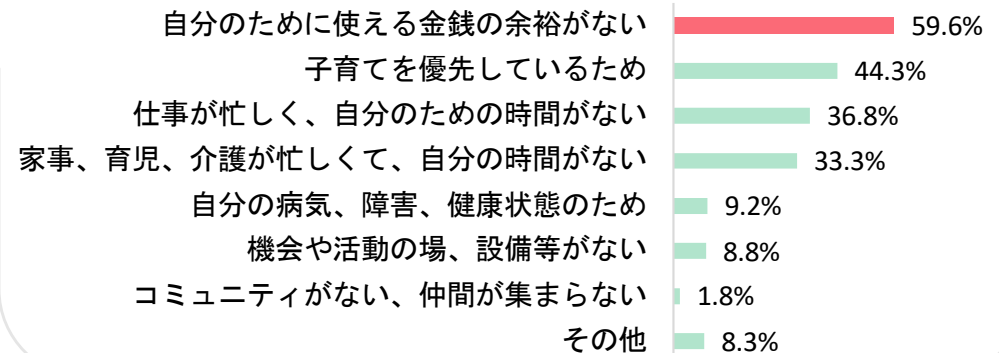
金銭面の不安がある
(n=231)



やりたいこと、挑戦してみたいこと
(n=231, 複数回答)



それができない理由
(n=228, 複数回答)



生活について ～体調・物価・介護～

(当事者の声)

1. 家計維持のために体調を整える余裕がない

- 将来的な不安は常にある。自分の体調管理もしたいが、仕事を休むと給料が減ってしまうから、なかなか通院出来ない。私にとって、これからかかる学費、生活費などの余裕がない。
- 健康上の不安。(通院加療中につき、いつ悪化するか不安。入院となった場合の就労不能による収入面の不安。)
- 自分がもし体調を崩して働けなくなったら仕事の収入が無くなってしまおうという不安。毎月の家計が赤字で、日々、お金のことで頭が一杯になってしまうストレス。子供にももう少し余裕のある生活をさせてあげたいが、収入が増えない。
- 万が一、自分の体調が悪くなった時の保険をかけようにも、日々の生活に手いっぱい、そこまで、余裕がない。

2. 物価高

- 食費が重んでいます。息子には、我慢させたくないです。食いざかりなので結構食べます。その上、食料品の値上げがあつて・・・どこを削ればよいのか。お金、お金、お金ってなっている自分が嫌。
- 物価ばかりが上がり、生活費は変わらず、コロナもあるので、何かあると仕事を休まなければいけない。子供の進路もあるので、今後、どれくらいお金がかかるのか？
- ガスの値上がり等で出費が多くなった。生活が出来なくなるギリギリの月もある。仕事場でひとり親である事の理解がなく朝から17時まで働いているがとても疲れて家の事があまり出来ず子供とも時間をゆっくり作れないのがやしい。子供ともっと一緒に時間がほしい

3. 親の介護

- 母の介護と子育ての両立しつつ仕事をしているので金銭面が不安。
- 同居している母が高齢で介護が必要になった時に、仕事ができなくなると、収入がなくなるので、不安があります。自分自身も、体調に不安があり、今の仕事を定年まで勤めることができるかなど、です。
- 自分の父母が高齢になってきており今後の病院への通院や食事の準備、手続きなどが負担になってきている。

生活について ～学費・生活費・複合的不安～

(当事者の声)

4. 子どもの学費・生活費の工面

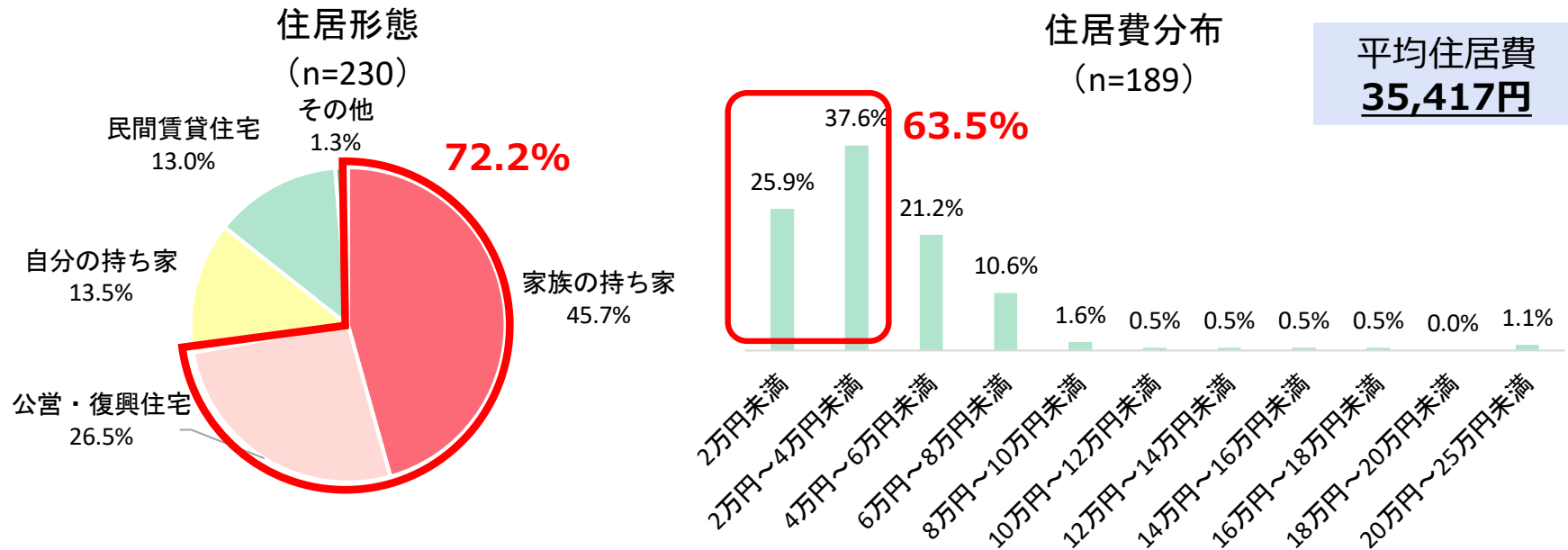
- 子供が大きくなるにつれ、学費、生活費も増え、給料だけでは生活が大変です。食費を減らすと健康面での不安も出てきます。金銭面にとっても苦勞しています。
- **進学費用、学習塾等の習い事費用等不安**です。
- 子供は1人だが、学年が上になるにつれ、学校で使用する物や部活動などで使うお金が多くなる。片親から**養育費がもらえているわけでもない**ので給料日になっても支払い分を引いていくと、**ほぼ衣類など買う余裕はない月が多い**。これから高校を卒業して、専門学校に行かせる予定だが大丈夫なのかとても不安でいっぱい。しかし子供の将来の事を考えると、資格を取らせ、自分で1人でも生活していけるように育てなくてはと思っている。
- 中学生までは子ども手当もあり、何とか生活できていましたが、子供が高校生になると、子ども手当の支給は無くなり、通学、学費、部活動など、**中学生の時とは比べものにならないほど、出費がかさむ**ので、生活していけるのかとても不安です。

5. 複合的な不安

- 家賃も気仙沼で働いて得られる収入に対して高すぎて、コロナ禍で光熱費も以前より1万円～1万5千円くらい高くなり、食費を切りつめるしかないのが辛いです。自分だけなら我慢できても、子供にも我慢させている事が辛いです。**女性1人でも、家賃を支払いながら、生活していけるほどの給料の会社もない**ため、自分でこの生活から抜け出す選択肢がなく、落ち込むこともあります。気仙沼を出て収入を上げることも考えています。会社勤めだとアルバイトも禁止されてるので、収入も増やせない。
- 金銭面の不安は常にあります。コロナ禍によって収入が月2万円マイナスとなったため、家計の出費を見直し最低限で暮らしています。免許をとるお金や車を買うお金を貯める余裕がないため、**なんとかして収入を増やす方法はないものか**と画策しています。健康に関しては●●代（年齢）になって、気をつけていても年数回は体調を崩すようになってきたため、その際の生活費の確保や、**医療費助成が振り込まれるまでどうしても期間がある**ため、先に立て替えるのが難しかったりと、不安はあります。
- 前に働いていた時より休みが少なく給料も少ないのでこのまま気仙沼で暮らせるか不安。●●（家族）は認知もひどく週2でデイサービス通いですが、私の低い収入でやっていけるのか？**ショートステイも予定しているがもう少し収入を増やさないと**。でも子供も小さいし**月1か2ヶ月に1回は保育園から呼び出されている**し。残業もできなくなるし不安しかありません。
- 収入を増やしたいが、家事など考えるとこれ以上は難しい。**医療費を考えて通院をやめようと思った**が、体調が悪化した場合、働けなくなると収入が無くなってしまうので、通院は続けている。

生活について ~住居~

平均住居費は35,417円。住居形態は、**家族の持ち家と公営・復興住宅に 72.2%**（166人）が居住しており、これらの住居費は平均約28,000円であった。回答者の63.5%（120人）が住居費4万円以下であった。

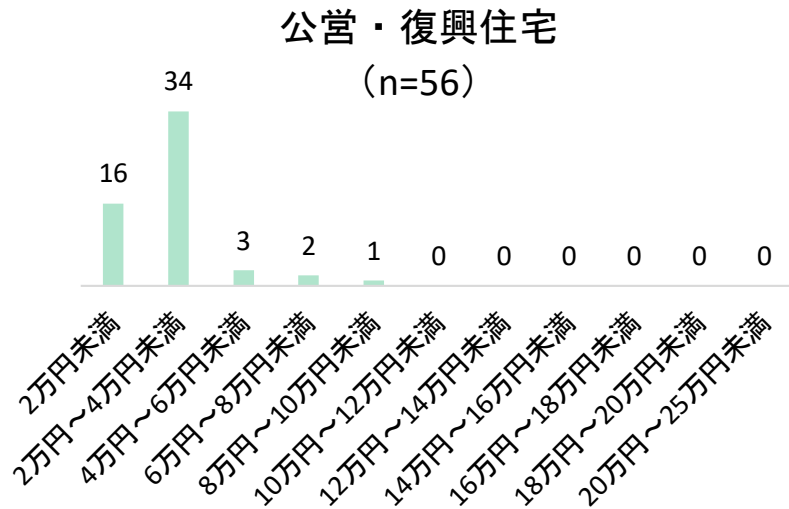
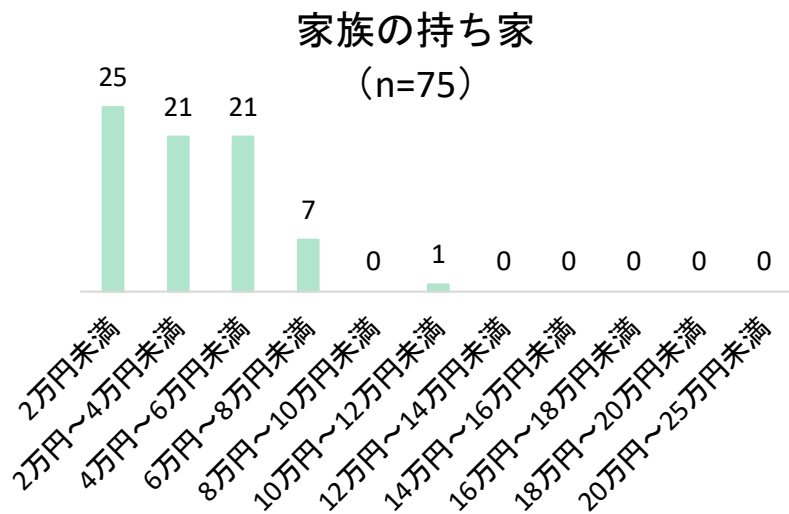
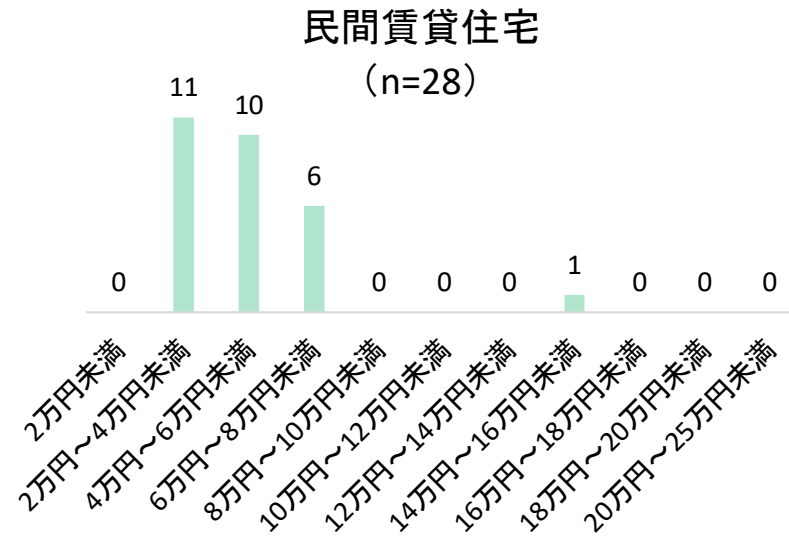
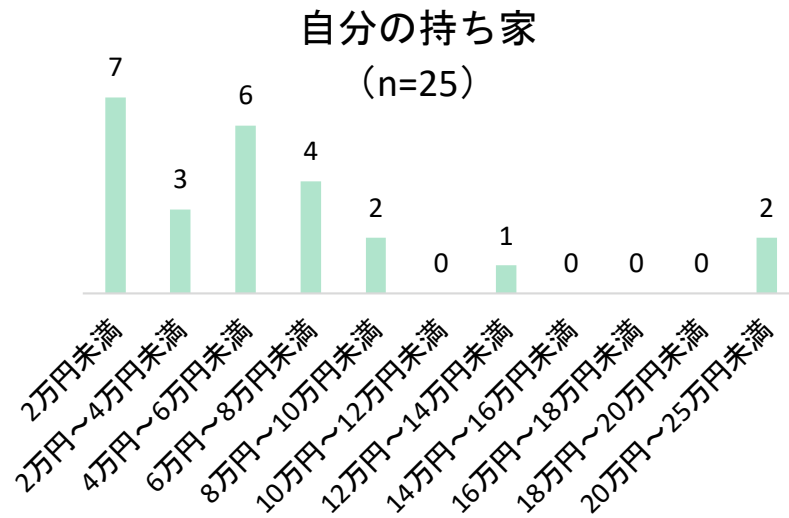


(当事者の声) 住居費の負担

- 仕事の時間など限りがあり収入も限りがある。家賃の支払いが負担になっている。復興住宅は何回が応募したが当たらなかった。
- **市営住宅の家賃高くて苦しいです。ひとり親半額とかにしてほしいです。**せめて高卒まで。ガス・水道代もです。高すぎです。
- ひとり親で家賃（住宅にかかる費用）が3万を越えるのはとても厳しいと思います。
- 光熱費・家賃等の支払いで将来の子ども達への貯えができない。
- 仕事を頑張った結果、現在、児童扶養手当を満額もらえない。本当は正しいことをしているはずだが、子の成長（小学生）と共に、職を変えざるを得なかった。結果、収入が大幅に減り、家賃6万に収入12万の中、貯金がなくなり、とてもつらいです。**支援は、頑張っている人へも必要だ**と強く感じます。（現在、生活のしづらさから、都心への移住も検討中です。）

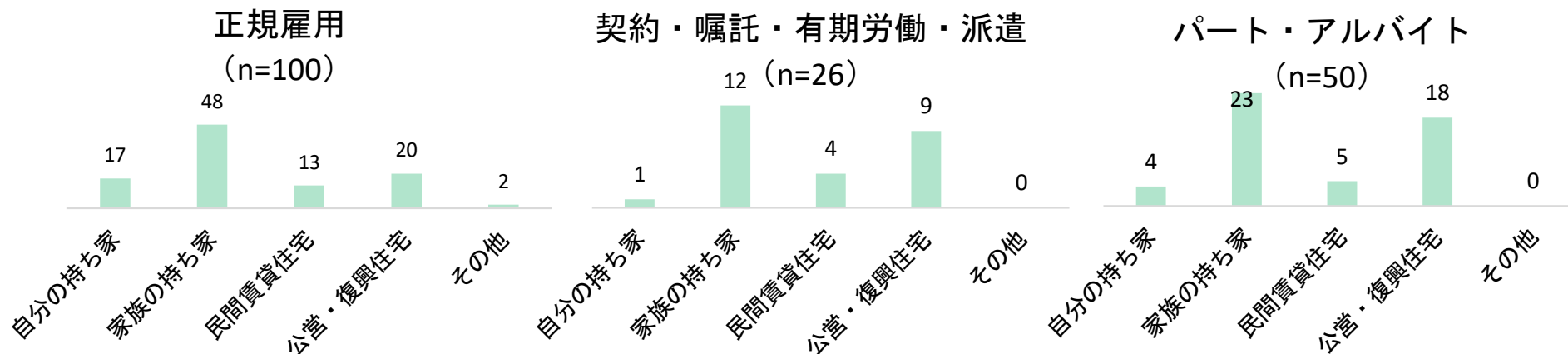
生活について ~住居費~

住居形態別の平均住居費は、自分の持ち家55,640円、民間賃貸住宅47,581円、家族の持ち家28,907円、公営・復興住宅27,188円であった。



生活について ～雇用形態別の住居～

回答者の55%が同居、家族の持ち家に45.6%が暮らしている。雇用別の住居でも家族の持ち家に暮らすひとりが最も多い。自由記述やインタビューからは、同居により家族からサポートを得られて助かっているという声がある一方で、賃貸や公営・復興住宅へ転居を希望する声も少なくなかった。



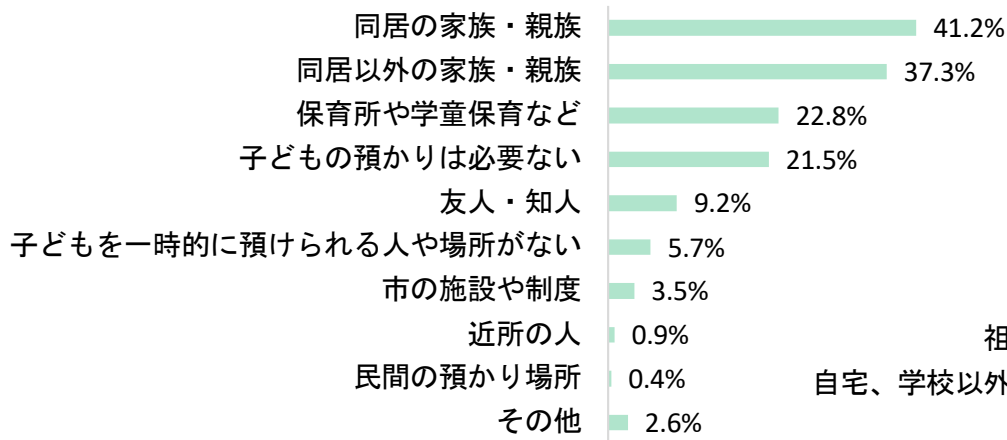
(当事者の声)

- 本当は実家を出てこども達との生活をしたいが、金銭面のことを考えるとむずかしい。
- 祖父（私の父）と子供の関係。子供がやりたいと言う事を全部頭ごなしに反対する事。もちろん私の言うこともですが…。金銭面上、祖父と同居しか考えられないのですが、別にくらした方が良いのか本当に悩んでいます。
- **公営・復興住宅の応募の方法などもう少し応募しやすくしてほしい。**
- 親にたよりながらの母子世帯なのですが、いずれは、実家を出て自立したいとは、思っているのですが、子供の学校のことを考えると学区をかえたくないと思っています。ですが、アパートも貸し家なども、ぜんぜん学区内にないので、なかなか、自立できずにいる。
- 実家を出たいが金銭面が厳しく実家を出るまでに至らない。
- **家賃が高く公営住宅を希望しているが、抽選で全然あたらない。**

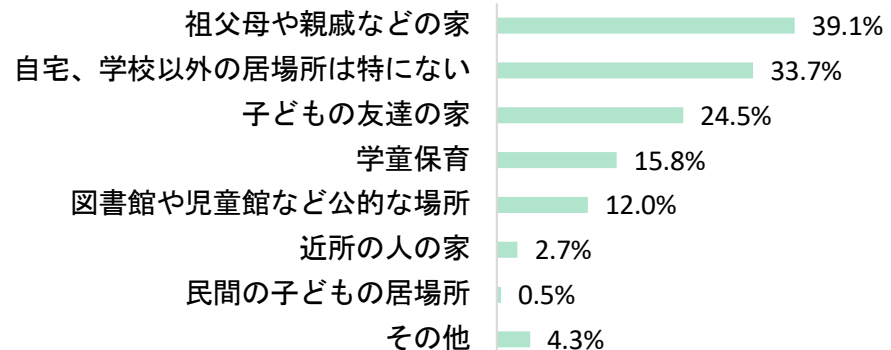
子育てについて ～子どもの居場所～

子どもを一時的に預けられる人や場所は、同居または同居以外の家族・親族と約半数が回答。小学生以下の子どもに限ると保育所や学童保育などがもっとも多い。民間の預かり場所やファミサポなど市の施設・制度を使っている人はごく小形で、自由記述やインタビューからも、家族を頼れない人たちが子どもの預け先に困る悩みが聞かれた。小学生以上の子どもが学校と家庭以外で過ごす場所は、祖父母や親戚などの家が39.1%（72人）と最も多く、自宅、学校以外の場所は特にないが33.7%（62人）が2番目に多かった。

子どもを一時的に預けられる人や場所
(n=228, 複数選択)

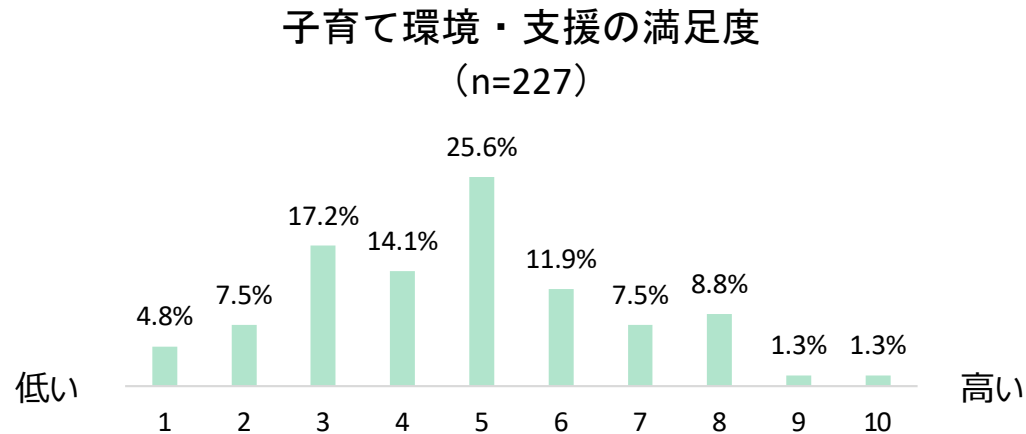


小学生以上の子どもが過ごす場所
(学校と家庭以外)
(n=184, 複数選択)



子育てについて ~悩み~

子どもの教育費、通学、遊び場、勉強を見てあげられない、子どもとの時間を作れない、預け先が見つけれないなど、子育ての悩みは多い。



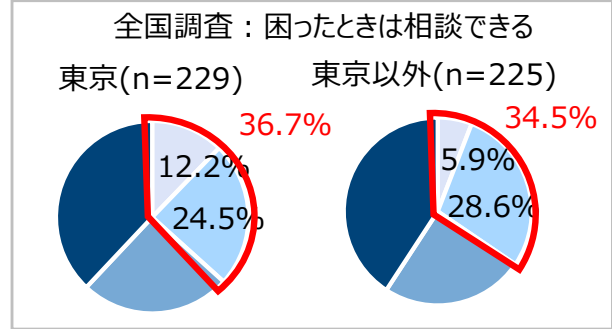
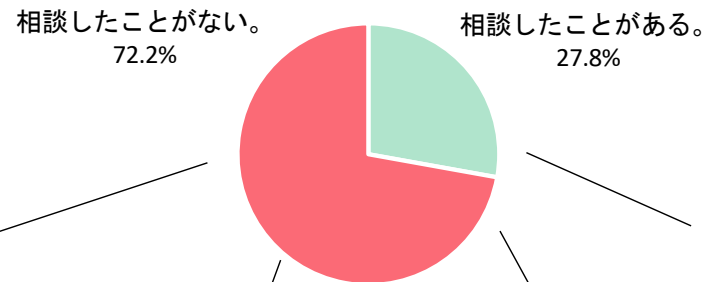
(当事者の声)

- 資格取得をし、定職にも就いているが、なかなか生活水準を上げられずにいる。子どもにかかる教育費等は不安である。現在においてもタブレットでの学習などwi-fi環境が必要であったりするが、最低限の範囲が精一杯（手間もかかる）で、子どもに十分な環境や機会を与えられていないように思えてしまう。習い事についても、子どもの希望に応えられないことが金銭的にも環境（物理）的にも多く、可能性を狭めてしまっているように思う。
- 通学に不便（距離が遠い）だがスクールバスがない。悪天候や不審者の出現時、徒歩に不安があっても解決策に悩む。
- 子供の遊び場がない。隣、近所の人に怒鳴られるので外でも遊べません。
- **保育所以外で子どもを預けられる所がない。** 自立して生活したいがなかなか出来ない。（金銭面、子どもの預け先が少ないため）
- 子どもの送迎などの負担、**居場所のなさや子ども食堂の必要性**
- 離婚直後に気仙沼に戻った時に働きたくても、**保育園に空きはないから仕方ないとの回答を繰り返し言われた。**→「仕方がないですませないで欲しい。」保育園と緊密に連携、他に支援策がないかなど丁寧に伝えるなど。本人が諦めずに担当課に通い続け、他から情報を得て担当課に繰り返しお願いして、結果的には子どもを保育園に預け、働くことができた。（インタビューで類似の2ケース）

求められる支援 ～窓口相談～

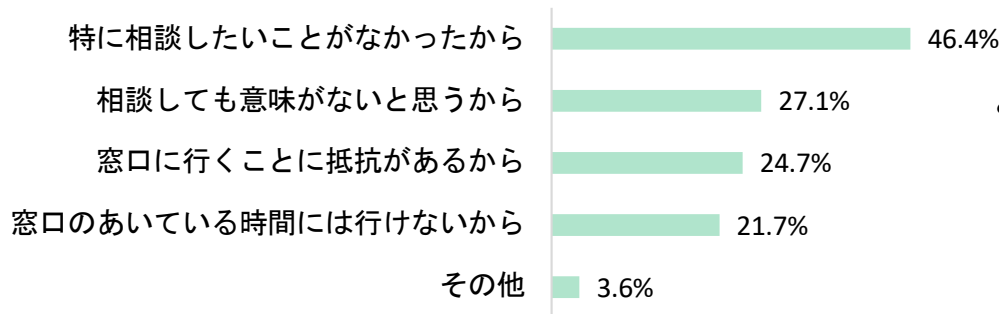
市役所の窓口で相談したことがあると答えたのは、**27.8%(64人)**。窓口相談しなかった理由のうち、「特に相談したいことがなかったから」以外では、「相談しても意味がないと思うから」27.1%（45人）が最も多いが、「窓口に行くことに抵抗があるから」24.7%（41人）、「窓口にあいている時間には行けないから」21.7%（36人）。
 窓口相談をしたことがある人のうち、**73.0%**（46人）が**困った時に相談できる**と回答。全国調査(2021年)と比べて、気仙沼市役所の窓口相談への信頼度が高い。

市役所の相談窓口
(n=230)

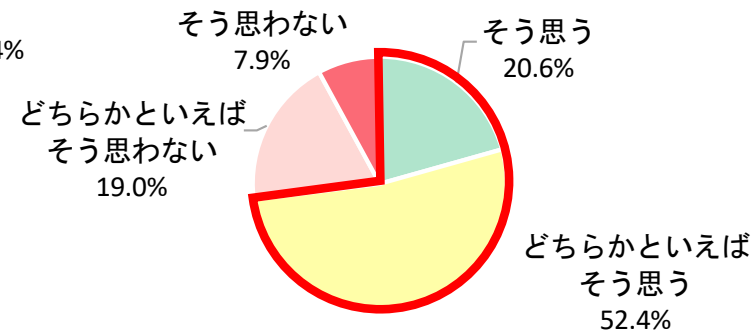


出典：シングルマザー調査プロジェクト課題別レポート
「傷つく窓口ー児童扶養手当の元凶届の実態と改善要望」2021年

窓口相談しなかった理由
(n=166, 複数回答)



困った時に相談できるか
(n=63)



求められる支援 ～窓口相談した・しなかった理由～

(当事者の声)

1. 窓口相談しなかった理由

- 窓口のあいている時間には行けないから
- 窓口に行くことに抵抗があるから (知り合いや近所の目が気になるなど)
- 窓口があいている時間帯は就業時間と重なっているため、**休みを取る (収入が減る) 必要がある**、相談窓口で知り合いに遭遇するリスク、窓口で相談内容が他の人に聞かれてしまうリスクなど、相談のハードルが高いと感じている人が多い (インタビュー)

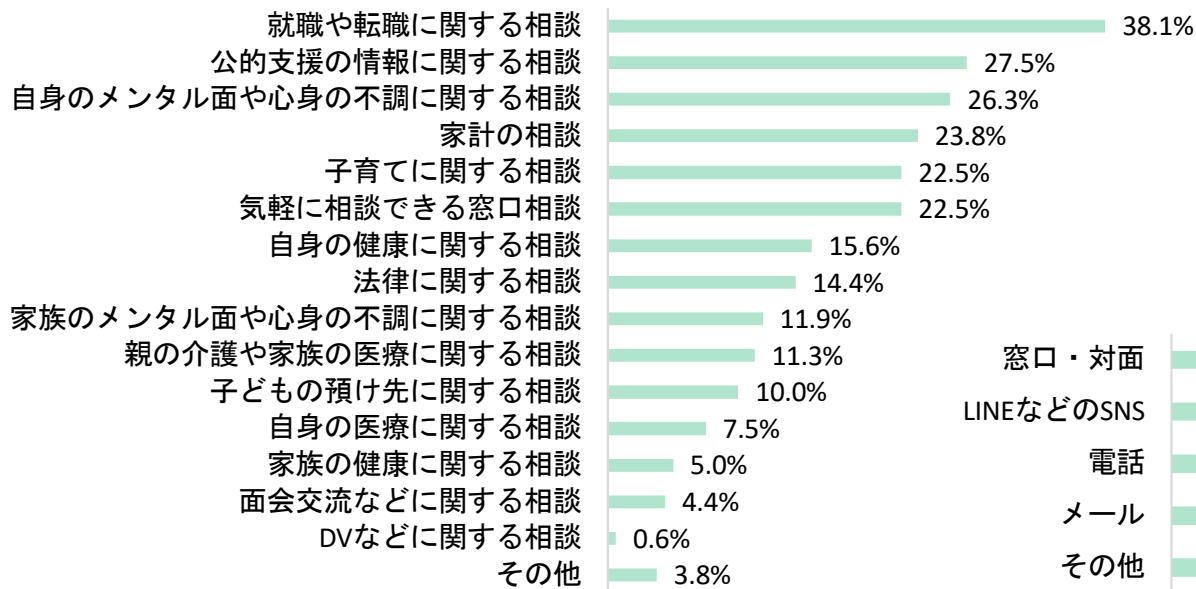
2. 窓口相談したことがある

- 正直に言えば、やはり市役所の方も人間ですから、対応する人にもよります。女性の方でも年齢や経験や感性、価値観も違うので、心身になって下さる方もいて感謝することもあります。生活の全てを相談できる訳ではありませんが、聞いてくれる方には話して少し元気になり頑張ろうと思えた事もありました。母子家庭でも自立し、前向きに生きたいと思っているのですが、正直市役所の方に負い目を感じる所もあるかもしれません。自分自身の力の無さを変えられるすべを教えられる所があったら相談したいです。
- **担当者によって態度や対応がまったく違う**。今回はとても親身になってくれる人が対応してくれて本当嬉しかった。前回の男性職員には本音を言えばイライラする対応をされた。
- 窓口も結局は人によります。当たり外れでは言えませんが、やはり、人と人とのつながりです。親身になってくれる方と、そうでない方と分かります。
- 自分達が困っていないからか、本当に困っている私達の事を真剣に思って聞いていない。
- 相談に行った時もあるが、お金の事や、これからの生活の事で相談しても、「国や市できめられてる」と言われ、本当に困っていても対応してもらえないから。
- ●●さんがいるから安心してなんでも相談できる (自由記述、インタビューでは、窓口担当の個人名が度々聞かれた、感謝の言葉を何度も耳にした。職員個人が、相談した人の信頼を得ていることが、相談窓口への信頼に直結している。)

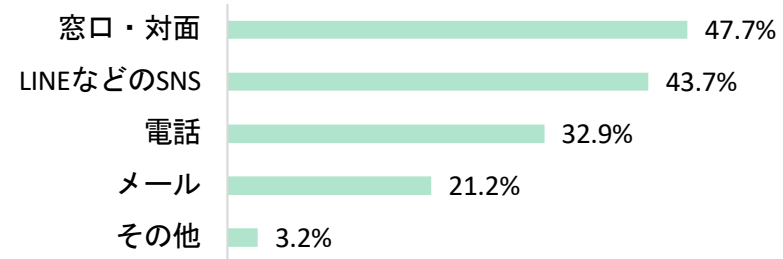
求められる支援 ～相談内容と方法～

相談したい内容は、「就職や転職に関する相談」が、**38.1%**（61人）ともっとも多い。相談しやすい方法は、「窓口・対面」**47.7%**（106人）に次いで「LINEなどのSNS」**43.7%**（97人）。LINEなどは窓口対応時間や周りを気にする必要がないことや手軽さから望む声が多かったとみられる。

どんなことで相談したいか
(n=160, 複数回答)



相談しやすい方法
(n=222, 複数回答)



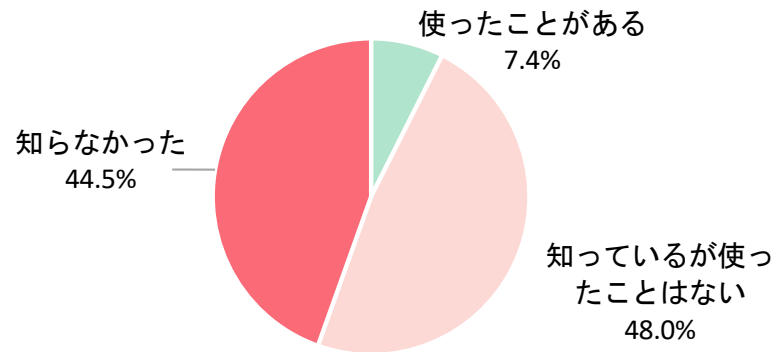
(当事者の声)

- 市役所に行かなければならない時（児童手当などの書類）、平日しか行けなく休まなければいけないので月に1度でいいので土曜日か、また18:30頃まで窓口が開いていると助かります。
- 一人親は、子供の行事や体調不良などによりどうしても自分が休んだり、早退したり、遅刻することになります。民間企業で働いていると、風当たりが強く、いつもすいませんすいませんと頭を下げてばかりです。それがかなりのストレスになりますが、迷惑をかけてしまっているのも事実なので…。それを市役所に相談してもどうにもならないと思います。

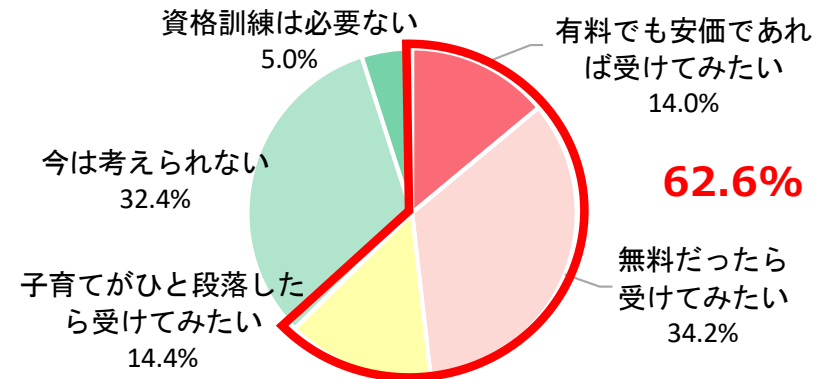
求められる支援 ～職業訓練と資格取得～

資格取得のための給付金を使ったことがある人は**7.4%**にとどまり、知らなかった人も44.7%いた。一方、今後やってみたい仕事を実現するために職業訓練や資格取得の講座を受けたいと回答した人は**62.6%**おり、そのうち、無料または安価であれば受けたい人は**48.2%**と回答者の約半数にのぼった。また、学びたい内容としてはパソコンと回答した人が多かった。

資格取得のための給付金について
(n=220)



講座を受けてみたいか
(n=222)



(当事者の声)

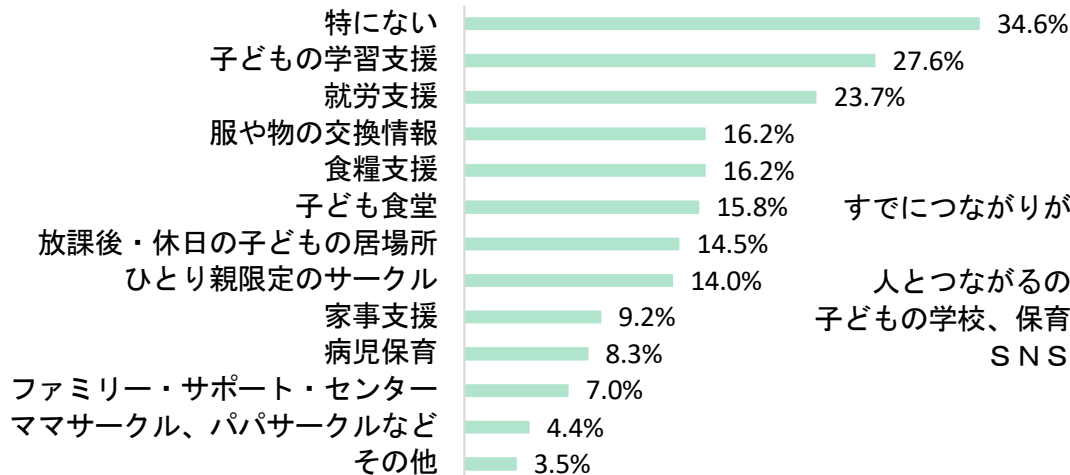
- ひとり親になって間もないので今はどんな支援があるのかわかりません。生活が大変なので、よりよい就職先が見つけれられるように資格を取りたいです。
- 病院や長く働く事の出来る仕事に就ける資格をとりたい
- 副業にできるような、習い事の先生として活動できる資格や、オンラインで収入を得られる資格がよい。
- **パソコン**、エクセル、ワード、インターネットを日曜日に教えてほしい
- webデザインなど、在宅でこれからもずっと仕事できるもの
- 基本的に今はやりたいことで仕事を選べる立場になく、**収入を上げられれば生活が安定し**、心にもゆゆうができて学ぶ時間も作る事ができと思うので、この状況で身動きがとれない。
- 資格取得の給付金を使ってより良い仕事に転職したいが、**一生に1回しか使えない**と言われた。

求められる支援

母子・父子世帯が使ってみたいサービスは、子どもの学習支援27.6%（63人）がもっとも多く、就労支援（転職や副業の相談）23.7%（54人）が2番目に多い。また、ひとり親のママ友・パパ友のつながりが欲しいという希望に次いで、人とつながるのは煩わしいと回答した人も同程度いた。

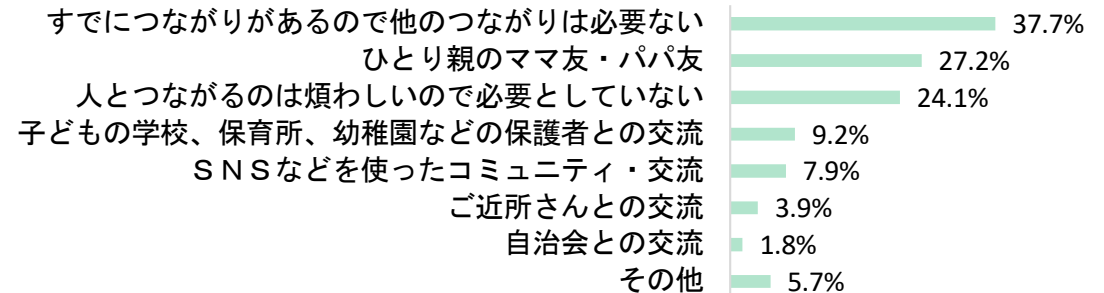
使ってみたいサービス

(n=228)



生活にほしいつながり

(n=228)



(当事者の声)

- 他県の保育園に通わせていたが、引越して来て対応の違いにがっかりした。今の預かり方だと保育所の他に預けられる人がいないとフルタイムはとても厳しいと思う。子育てにやさしい地域では全くない。親も子供も元気な時はいいけど そうでない時もある、そういう時に支えてもらえないと、誰かにおすすりできる地域にはならない。ひとり親だとなおさらです。
- 支援だけでは生活も心も豊かになれないのです。収入が上がったとして支援も減るので、ずっとギリギリの生活からは抜け出せません。アルバイトしたくてもアルバイト禁止の会社がほとんどです。まだまだ働けるのにお金もないのに、気仙沼の給料が安くて女性が働く場所も低収入のものばかりで大人一人生活できない収入で子供の将来なんて考えられないのは苦しいです。働きたいのに働けないのは、どうにかできないのでしょうか。私も子供のためにも社会人として国のためにもだれにもたよらず生きたいです。

求められる支援

(当事者の声)

1. 子ども関連

- 家庭環境に関係なく、進学できる支援がほしい。小さい子供よりも小、中、高の方が金銭面は大変になる。
- 子どもを預けられる場所（保育所以外）があれば嬉しいです。ファミサポの利用料の割引などがあると嬉しいです。
- サイズアウトした服や靴を持ち寄って交換できる場が欲しい（ひとり親世帯優先で）。ひとり親世帯が受けられる支援の情報をもっとオープンにわかりやすく簡単に得られるようにしてほしい
- 入学式等、1度しか使わない物や、本、バッグ、制服、他。きれいなのに使えないので、必要な人にあげたいと思ってもなかなか声をかけられないので、場があると助かる。（助け合いスペース的に、自由に使える場）
- 公共料金、学童保育料、ファミリーサポート利用料等の減免があるとよい。保護者も子供も周りとの格差を感じず生活できるような支援を。昨年ひとり親家庭に市から頂戴した商品券も有難かったですが、それ以上に帯に添えられていたメッセージがとても嬉しかった。
- 児童館の利用時間が16時半までで、小学校に入学したばかりの頃高齢の祖父母に頼むしかなく大変でした。今後ひとり親の方たちが子育てや生活がしやすくなるように、匿名でも意見を伝えられる場が増えても良いなと思いました。

2. その他

- 気仙沼市はひとり親支援は全く足りていないと感じている。ひとり親への支援をほとんど感じたこともないし、孤立しているなど感じてしまうし、周りに同じような仲間がいるな、と感じられないので、心細さを感じる。ひとり親ならではの悩みを抱えても、それをほきだす場所があると心強いし、この町で子育てしていきたいと思える町づくりをしてほしい。
- 意見を述べても、毎回、反映されることも無く、または反映されたとしても、かなりの年数を生じる為（例、幼稚園の無償化等）、1度は記入するのを止めようかとも思いましたが、誰かが意見をしなければ伝わらないと思いペンを取ることに致しました。気仙沼は、低賃金に物価は高いです。現在、何もかもがまた値上りです。ひとり親で、子供を育てている身は、毎日、生きた心地がしません。児童扶養手当も出しているという形だけのように低く、児童手当も、高校からは有りません。就学援助も無いよりは助かりますが実際、生活がより豊かになったか？と言えば、それ程、目に見えてではありません。親の医療費の戻りも同様です。
- 去年のクリスマスに、気仙沼市（ホヤぼーや）から、お手紙と商品券が郵送されてきました。子供のプレゼントばかり考えていた時だったので、開封してビックリしました。感激して、商品券は、まだ大事に保管しています。本当に困った時に使おうと思っています。いつも気仙沼市に助けていただいて、ありがとうございます。



「気仙沼市ひとり親の生活調査」報告書 ～誰も取り残されない気仙沼の実現に向けて～
2022年11月4日（2022年11月18日改訂）

調査主体：NPO法人「人間の安全保障」フォーラム

調査協力：気仙沼市
NPO法人ウィメンズアイ
シングルマザー調査プロジェクト
認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ

調査アドバイザー：湯澤直美 立教大学コミュニティ福祉学部教授

調査分析・レポート作成：

石本めぐみ（NPO法人「人間の安全保障」フォーラム理事、NPO法人ウィメンズアイ代表理事）
五十嵐光（NPO法人ウィメンズアイ事務局長）
米倉京香（NPO法人ウィメンズアイスタッフ）

この調査・報告書作成にあたり、米日財団、FONDATION CHANELより、助成をいただきました。
また、気仙沼市保健福祉部子ども家庭課より多大なる協力とアドバイスをいただきました。